

# 被災者を「医療」支援

## 福祉機器の開発販売会社「創研」

### 空間の除菌を提案

### 「粉塵肺炎」などに対応

復旧・復興が進む東日本大震災の被災地で環境衛生面での支援をしようとして、福祉機器の開発販売会社「創研」(本社・足利市)は、医療ホロンティアらと共に被災地を訪問し、老人福祉施設などで環境空間の除菌を提案している。これまでに宮城県沿岸部の市町を4回にわたり訪問し、瓦礫の粉塵などで増加傾向にあるというヘドロ粉塵肺炎などの予防策を自社製器を使って説明。独自のホロンティア活動を進めている。

### 宮城県沿岸部を4回訪問

「創研」チームが医療ホロンティアらと共に初めて宮城県入りしたのは先月4月15日。仙台市の南の亘理町中央児童センターを訪れ、水道の復旧の遅れや復旧作業で生じる瓦礫からの粉塵や煤煙などにより、感染症やヘドロ粉塵肺炎などが増加傾向にあることを説明。空間除菌などに有効な同社の除菌液「プリユテック」



仙台市南部の被災地を訪れた「創研」の増山直人専務取締役(上)。下は瓦礫と化した民家と打ち上げられた漁船。瓦礫からは海藻などを含んだ粉塵が舞つ

を奇贈した。

同23日には、医療ホロンティアらの協力を得て岩沼市の保育所などに除菌液「プリユテック」の原液とスプレーを奇贈したほか、角田市の社会福祉施設を訪れて入居者のお年寄りらに除菌液「プリユテック」の使用方法を説明した。

同29日には、宮城県の被災地に生活物資を運ぶ団体に除菌液「プリユテック」の原液とスプレーを託し、避難者が一時身を寄せている亘理町中央児童センターや岩手県の市町7カ所に除菌液などを奇贈した。

5月12日には、亘理町中央児童センターで再び説明会を開催。増山専務が「建物を中心とした瓦礫の撤

去に伴い、海のヘドロを含んだ粉塵や煤煙が飛散してヘドロ粉塵肺炎、ノロウイルス、インフルエンザ、ツツガムシ病等の細菌感染症などが増えているといいますが」と現状を報告。「避難所などの施設では空間の除菌

### 株式会社 足利新聞販売

を行うことで環境衛生が保たれます。施設内の空間噴霧、手指の洗浄、備品の洗浄・除菌に手軽にこれが利用できます」と除菌液「プリユテック」の使い方などを説明した。

増山専務は「大震災・津波に襲われた被災地では2日で100年分の瓦礫が出たといわれています。残っ

た施設はみな遺体安置所です。地元では復興ではなく創生という人もいます。余裕があれば多くの人がホロンティアに行ってほしい」と現地の状況を目の当たりにした感想を述べている。

除菌液「プリユテック」は、食品業界などで殺菌剤として使われてきた次亜塩素酸ソーダを主成分に、希塩酸と水を特殊技術で稀釈混合して生成した除菌水。一般のアルコールなどではできなかったという強い細菌類やウイルスの除菌が可能という。

商品についての問い合わせは、創研(0284・21・3604)、代理販売の足利新聞販売(0284・41・2651)へ。

### 情報紙「かねで」休刊のお知らせ

新聞販売店が地域との触れ合いを図ろうと、2008年4月に創刊された情報紙「かねで」が丸3年を過ぎました。この間、地域の読者の方々にはいろいろとお世話になりました。振り返ってみると、様々な思い出が甦つてまいります。

多くの読者に支えられて、4年目に向かって意欲的に取り組んできました。情報紙「かねで」ですが、今回の東日本大震災・東電福島第一原発事故の余波は弊社にも少なからず及びました。さらに長引く不況により引き続き情報紙「かねで」を発行していくことが困難となりました。よって、今号をもって情報紙「かねで」は休刊することになりました。これまで情報を読いただいた読者の方々には心からお礼を申し上げます。本誌にありがとうございました。

なお「かねでCM」はこれまで通り発行していきますので、よろしくお願致します。

(株) 足利新聞販売 代表取締役社長 島田 泰史

社員一同